

さんぽ木だより

—— 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ——

vol.40
2022 春号



すずぎ出版発行「心のうたかれんだあ」(平成5年版)より 詩／坂村真民「ひとり」 画／海野阿育

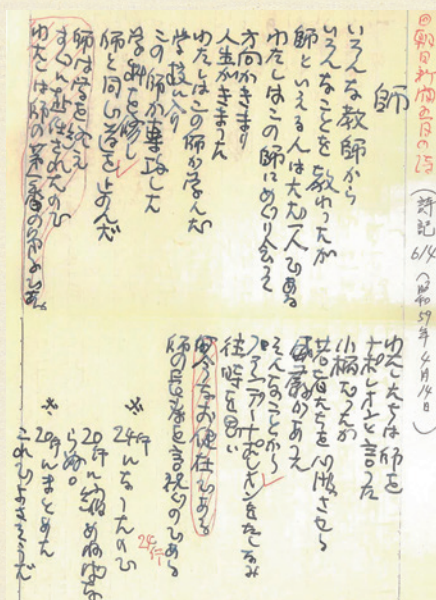
坂村家のアルバム

vol.10

ナポレオン先生との出会い

師 (75歳)

いろんな教師から
いろんなことを教わったが
師といえる人はただ一人である
わたしはこの師にめぐり会って
方向がきまり
人生がきまった
わたしはこの師が学んだ
学校に入り
この師が専攻した
学科を修し
師と同じ道を歩んだ
わたしは師を
ナポレオンと言った
小柄だったか
若者たちの心服させる
威厳があった



詩記614(昭和59年4月14日)

この詩に登場する先生に出会うまで昂(真民の戸籍名)少年には、心を許せる先生はなく、いつも孤独でした。めぐり会いは、旧制中学校最終学年の頃です。紹介の詩は、真民75歳の折、往時を思い師の長寿を言祝ぐ気持ちで詠まれたものです。写真は真民の「思索ノート」を開いたもので、その頁に綴られた詩を推敲して発表したのが、今回紹介する詩という

事になります。

昂は旧制中学校卒業にあたり、貧しい家庭でも上の教育を受けることが出来る師範学校(授業料無料、卒業後先生になる)への道を志しました。師範学校を出て先生となり、全村教育を目指しながらも若くして逝った父の後を継ぎたいと願ったからです。当時の入学試験は、一日毎に成績の可否を発表してゆくというもので、最終日の音楽の試験で夢破れてしまいました。厳しい生活の中にあっても子供達の教育を望んだ母・夕子でしたが、万事休す。そこに登場するのが、この「師」です。

ナポレオンという渾名を持つ先生は、伊勢にある神宮皇學館の出身でした。さて神宮皇學館の説明が必要になりますね。この学校は国の政策によって設けられた神官養成学校で、生徒の多くは神社の子弟でした。他にも、貧しい家庭で卒業後は先生になるという生徒達も混じっていて、なかには妻子持ちまでいたとか。内務省立なので授業料が他に比べて一番安かったことが、夕子・昂の親子が選んだ理由でした。

表紙の詩



ひとり(69歳)

花の下で
ひとり花を見る
ひとりの楽しさ
ひとりの嬉しさ
花われを呼び
われ花を呼び
雲来り雲去り
桜燦燦

坂村真民の生き方を考えるとき、キーワードとなる言葉が、「ひとり」、「独り」、「孤独」という言葉です。

真民詩は、自己と徹底的に向き合い、自己の内の未熟さを反省し、そこから明日に向かってどう生きるかを摸索する中から生まれて来ます。

真民が「孤独」になるのは、自分の世界の中で自分を磨くためであり、ひとりの世界、独りの時間の中で自己を見つめ、反省することによって「詩」が生まれ、今日より明日をもっと良い生き方をしようと思う気持ちが生まれてくるのです。

そういう意味で、真民にとっては「ひとり」は自分の世界を最大限楽しむことが出来る「自由な時間と空間」なのですね。

こうして師が学んだ神宮皇學館、師が専攻した本科国語漢文科へ入学しました。学校の授業には興味を持てなかったそうですが、万葉集に深く心惹かれてゆきます。山部赤人から入り、柿本人麻呂に傾倒してゆきました。やがて島木赤彦から現代短歌へと進み、一生を歌に生きようと決めるのです。そして、岡野直七郎の主宰する短歌結社「蒼穹」に入社し、青春の生命を燃焼させて行きました。

学校内の短歌誌に投稿する際に、母親の思いに応えようと使った名前が『真民』でした。『またみ』と読みます。これは、昂が小学生の

頃、「父親のように早死にしてはいけない」とお母さんが心配して姓名判断の方に付けて貰った名前との事。

「短歌」が「詩」の世界へと移ってゆく転機、「マタミ」が「シンミン」と呼ばれるようになるきっかけは、年月を待たねばなりません。

さて試験について二言。師範学校受験で音楽の試験は「君が代」を歌うことでした。「キミガ」…「まで歌って先生の「もうよろしい」で終了、もちろん不合格でした。

神宮皇學館は、試験科目が他とは異なり数学無し、数学が苦手な昂にはありがたかった

そうですが、特に勉強もしていない田舎者には容易く入学出来る処ではなく、せめて歴史で100点を取ろうと一年間頑張ったそうです。真民が受験勉強したとは、何か親しみを覚えませんか。

師・ナポレオン先生の話は続きがあり、伊勢時代の日々と共に次号で紹介します。

文／西澤真美子

真民詩との出会いは一枚のポスターから

吉沢英治 (70歳)

一遍上人ゆかりの地である長野県佐久市にお住まいの吉沢さんは、一枚のポスターがきっかけで真民詩に出会う。そのポスターは48年経った今も大切に掲げられている。



真民詩との出会いのきっかけとなったポスター

私が初めて坂村真民先生の詩に出会ったのは、昭和四十九年八月でした。長野県佐久市内にある正安寺坐禅会の休憩時間、壁に貼られた一枚のポスターに見入っていた時です。

「君はこのポスター気に入ったかい？」後ろを通られたご住職、塚田耕雲老師が声を掛けて下さったのです。

「はい、観音様のお顔の素晴らしさと、詩がいいです」そうお応えすると「この詩は四国に住んでおられる坂

村真民さんの詩だよ。気に入ったらこのポスター持っていきなさい」老師はさっと壁から外し、くるくると巻いて私に渡して下さった。

鎌倉・杉本寺のご本尊十一面観音菩薩様の写真と、右上に真民先生の詩が書かれていた。

死のうと思ふ日はないが

生きてゆく力がなくなることがある

そんな時お寺を訪ね

わたしはひとり

仏陀の前に坐つてくる

力なき明日を思ふ心が

出てくるまで坐つてくる

耕雲老師に頂いたポスターは、四十八年経った今も、部屋の壁に掲げてあるのです。

坐禅会から二ヶ月後の十月二十四日、NHKラジオ人生読本で真民先生の「詩一筋に生きて」と題してのお話があり、録音して何度もお聞きしました。

昭和五十三年一月二十八日、初めて先生のお宅を訪ねました。先生との忘れられない邂逅でした。翌年五

月、結婚記念に詩集を作ろうと思いい、先生にお手紙を書いて序文をお願いしました。今でも冷や汗が出る思いです。

先生は、柏樹社の原稿用紙に「抒情の豊かさとしみじみ」と題して、速達で序文を送って下さったのです。震えて開封し、泣いて先生のお心を噛みしめた日が忘れられません。出来たての詩集を持って、真民先生をお訪ねすることが私たち夫婦の新婚旅行でした。

私には八歳年上の姉がいました。長い間、心の病で療養生活を送っていたのですが「姉さんの力になってあげなさい」と、先生はお便りで私を励まして下さり、やがて姉は退院し、入院中出会った人と結婚しました。辛い姉の病が、先生とのご縁を深めてくれたのです。

昭和六十年十月十日、母の誕生日に「念ずれば花ひらく」四十六番碑を庭に建立させて頂きました。信州佐久は一遍上人が初めて踊り念仏をされた地。先生は、一遍上人とのご縁をとても喜んで下さいました。

真民記念館10年を迎えて思うこと

3月11日開館日の持つ意味

坂村真民記念館は、東日本大震災が起った2011年3月11日から、丁度1年後の、2012年3月11日にオープンしました。

記念館を建設中に起った東日本大震災では、多くの人が亡くなり、多くの人が家族や家を失い、悲しい経験をしました。

その東北の被災地の人々の中にも、真民詩のファンがたくさんいて、その方たちから、真民詩を読んで、生きる希望をもらった、前に向かって生きていきたいと思えます、という手紙やメールをたくさんもらったのです。それで、オープンの日を、丁度1年目の3月11日にしようということにしたのです。

この、開館日の持つ意味を、私は忘れることなく、その後の災害で被災された方々への想いも込めて、悲しみ、苦しみながら、一生懸命前に向かって生きていく人たちへ、少しでもお力にな

れるように、この記念館を運営していくことに、心がけています。

開館からこれまでのあゆみ

幸い、全国から多くの方が来てくださり、今年中には10万人に達する見込みです。

館長として毎日来館される方々とお話をして、本当に皆さんが色んな悩みや悲しみを抱えて生きておられることと、その心の支えに真民詩がなっていることを実感しながら、少しでもそういう人たちの声を聴き、「共に生きる」人間になれるよう精一杯頑張らなければと思っています。そして、この記念館の存在意義も、そこにあると思っています。

〈これまでの取り組みの反省点〉

1. まだまだ日本中に、坂村真民記念館が出来たことを知らせることが出来ていません。
2. 真民詩の素晴らしさを、多くの人に届けることが出来ていません。

3. 開館以来、毎年の来館者数が減り続けています。

4. 若い人へのアピールが足りず、若い人の来館が少ないのが現状です。

〈反省点への対策〉

1. 様々な媒体が記念館のことを採り上げてくれるようになってきましたが、愚直にこつこつとマスコミに向けて情報発信を続けていきます。

2. 記念館という発信基地があるからこそ、そこから常に情報を発信できるものであり、来館者への丁寧な対応により、一人でも真民ファンを増やす努力を続けます。

3. 企画展、特別展の展示内容を新鮮なものにして、リピーターを増やすため、真民詩を深く学び新しい切り口を探し続けます。

4. まだ少数ではありますが、私の話を聞いて真民詩に興味を持つようになってくれる若い小・中・高校生がいるので、できる限り小・中・高校

へ出向き又はオンラインで、真民詩の魅力を語り続けます。

〈今後に向かって考えること〉

その後も各地で起った大きな災害の被災者の皆さんの「思いに共感する」心を大切にし、コロナ禍の中で「辛い悲しい気持ちで生きている多くの人々」へ「生きる希望」と「一緒に歩む友がいる」ことを記念館の存在とともに伝えていきたいと思っています。

館長 西澤孝一



坂村真民記念館開館10周年記念特別展

「砥部の砥石で己れを磨け ～97年の生涯を生き切った坂村真民の生き方～」展

開催
期間

2022年3月5日(土)～8月28日(日) 月曜日休館(祝日の場合は翌日)

入 場 料／一般600円(前売り券500円)、65歳以上・高・大学生500円(400円)、小・中学生400円(300円)

／ 今回の特別展の見どころをご紹介します ／



1 私の好きな真民詩BEST15

今回の10周年記念特別展では、これまでの展示の集大成として、坂村真民の生き方と、そこから生まれた「真民詩」の魅力のすべてを、皆さんに見てもらう構成にしています。そのため、第1展示室では、これまでの10年間に来館された方々のアンケートを集計して、「私の好きな真民詩ベスト15」を選出し、その詩を展示しています。

どうしてもその時の企画展の展示作品は限られてしまいますので、「私の好きなこの詩」が見たいと言われても、その詩がその時の展示作品にない場合は、あきらめてもらうしかなかったのですが、今回「BEST15作品」を一堂に集めて展示することにより、多くの方の「好きな詩」が見られることになります。



2 坂村真民の詩人としての 充実期の作品が展示されています

学校の教員と詩人としての「2足の草鞋」を履くことを止め、詩を書くことだけに専念して生きることが出来るようになった真民が、「本物の詩人として書いた詩」とそれを「独特の真民流の書体で書いた詩墨作品」を展示しています。

58歳から砥部に住み、97歳まで休むことなく人間としての生き方を磨き続けた坂村真民の生き方と、自分を戒め励ましながらかき続けた真民詩の代表的な作品が展示されています。



3 人間としての真民の実像を 写真と解説パネルで紹介

終の棲家を得た真民と、砥部の生活の中で初めての「生涯の友」と言える人たちとの「交流の様子」や「妻と二人だけの生活の様子」などを写した写真や、砥部に來てから始まった重信川の河原での「暁天の祈り」の写真を展示しています。開花亭で始まった「朴庵例会の様子」や砥部町内の「真民詩碑」も紹介しています。

さらに、晩年の約40年間を過ごした砥部時代の年表、その時代の真民の生き方の解説等をパネルで展示しています。



4 コロナ禍における 人間の生き方を考える

このコロナ禍において、人々の生活は大きく変化し、人間としての生き方にも大きな影響を与えています。

そういう時代だからこそ、どのような時代においても変わらぬ「人間としての生き方」を求め続けた坂村真民の生き方と、そこから生まれた「真民詩」は、私たちに「生きる道しるべ」を示してくれていると思います。

坂村真民の「97年の想いが込められた真民詩」をゆっくりと鑑賞していただき、それぞれの方のこれからの人生における「生きるヒント」が、見つけられると思います。

「開館10周年記念イベント」のお知らせ

●日時 令和4年 3月12日(土) 開演:午前10時(開場:午前9時30分)

●場所 砥部町文化会館ふれあいホール

●イベント概要

◆真民詩を歌う・合唱コンサート

(1)GENTLE GESANG(西予市・男声)

(2)重信コーラス(東温市・女声)

(3)伊予銀行合唱団(松山・混声)

◆真民さんへのメッセージ募集優秀表彰式
表彰式 メッセージ発表(2人)

中学生5名、高校生5名を優秀者として表彰

◆夏井いつきさん講演会

「俳句の力 ことばの力」

坂村真民記念館を応援しています



ホテルクリオコート博多

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする



株式会社 宣翔物産

〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



To-be

介護付有料老人ホーム トゥービー

介護付有料老人ホーム
To-be

全78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)

M To-Be

住宅型有料老人ホーム モンレーヴ砥部

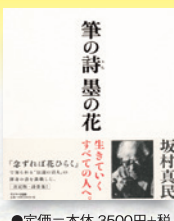
住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部

全18居室/40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

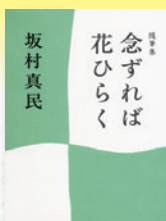
詩墨集
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

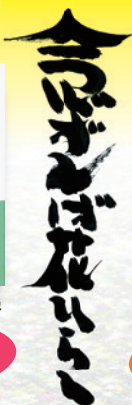
坂村真民記念館
所蔵の作品を満載!

随筆集
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての
随筆集を復刻!



10万部突破の
超ロングセラー!

詩集
念ずれば花ひらく



詩集●定価=本体各1000円+税

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>

いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集 二度とない人生だから



詩集 宇宙のまなざし



致知出版社 坂村真民シリーズ



全424頁、
豪華
座右版

生涯1万篇以上といわれる
膨大な詩作の中から366の名詩を精選。
長年、真民詩に魅せられ人生を歩む道標としてきた
『致知』編集長が渾身の思いで編纂に当たりました。
心が弱った時、悲しみに直面した時、
ぜひ本書を紐解いていただき、
心の糧となる詩に出逢っていただければと願っています。

坂村真民 一日一詩

坂村真民＝著／藤尾秀昭＝編
定価＝本体2,000円＋税
四六判上製

人生で口ずさみたくなる
言葉が見つかる



坂村真民 一日一言
坂村真民＝著
定価＝本体1,143円＋税
新書判

円覚寺派管長が選んだ
真民詩100選



坂村真民詩集百選
坂村真民＝著／横田南嶺＝選
定価＝本体1,300円＋税
新書判

真民氏が自らを励まし、
勇気づけるために綴った87篇の詩



坂村真民箴言詩集 天を仰いで
坂村真民＝著／西澤孝一＝編
定価＝本体1,300円＋税
四六判並製

月刊『致知』に掲載された
幻のインタビュー集



詩人の颯声を聴く
坂村真民＝著／藤尾秀昭＝聞き手
定価＝本体1,300円＋税
B6変型判上製

ち ち しゅ ばん しや
致知出版社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9
TEL.03-3796-2118 FAX.03-3796-2109

オンラインショップでも
ご購入できます！

致知オンライン で 検索

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の
会は、会員の皆様と記念
館との交流を図り、記念館
を共に支え、育てていくこと
を目的とした会です。入会
された方には会報と、真民
グッズなどの記念品を贈呈
します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

坂村真民記念館 友の会

検索

〈編集後記〉

私が子供の頃、宇宙旅行は夢物語でした。今、それが現実のものに。宇宙から地球を眺めた方は、「地球は美しいひとつの星だ」と感激されます。紛争が絶えないこの地球、その多くは国境問題です。真民の最晩年の言葉は、「国境のない鳥になる」でした。(真美子)

タンポポだより vol.40 春号

令和4年3月1日発行

発行元／坂村真民記念館友の会事務局

〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内

TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)

休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、

小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり